

製品名: プレセニリン 2 (リン酸化 Ser330) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05307**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	50kDa

抗原情報

遺伝子名	PSEN2
別名	PSEN2; AD4; PS2; PSNL2; STM2; Presenilin-2; PS-2; AD3LP; AD5; E5-1; STM-2
遺伝子 ID	5664.0
SwissProt ID	P49810
免疫原	抗血清は、ヒトプレセニリン 2 の Ser330 のリン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 296-345

背景

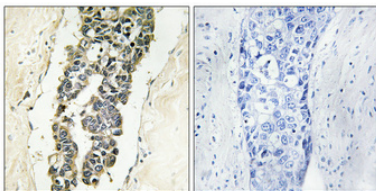
遺伝性のアルツハイマー病 (AD) 患者は、プレセニリンタンパク質 (PSEN1 または PSEN2) またはアミロイド前駆体タンパク質

(APP) の変異を有しています。これらの疾患関連変異は、長鎖アミロイド β (AD 脳に見られるアミロイド沈着物の主成分) の産生増加をもたらします。プレセニリンは、APP を切断する酵素である γ セクレターゼに作用することで、APP のプロセッシングを制御すると考えられています。また、プレセニリンはノッチ受容体の切断に関与し、 γ セクレターゼの活性を直接制御するか、プレセニリン自身がプロテアーゼ酵素として作用すると考えられています。PSEN2 の異なるアイソフォームをコードする 2 つの選択的スプライシング転写バリエーションが同定されています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、疾患: PSEN2 の欠陥は、アルツハイマー病 4 型 (AD4) [MIM:606889] の原因です。AD は常染色体優性遺伝性のアルツハイマー病です。アルツハイマー病は、進行性認知症、認知能力の低下、そして神経細胞内神経原線維変化、細胞外アミロイドプラーク、血管アミロイド沈着物として線維性アミロイドタンパク質の沈着を特徴とする神経変性疾患です。これらのプラークの主成分は、神経毒性のあるアミロイド β -APP 40-42 ペプチドであり、膜貫通型前駆体タンパク質 APP からセクレターゼによる連続的な処理を経てタンパク質分解によって生成されます。細胞傷害性 C 末端フラグメント (CTF) および APP 由来の C31 などのカスパーゼ切断産物も、神経細胞死に関与している。疾患: 変異すると初老期アルツハイマー病を引き起こす 3 つの原因遺伝子が特定されている。APP (アミロイド前駆体タンパク質遺伝子)、PSEN1、および PSEN2 である。これら 3 つの遺伝子は、常染色体優性初老期 AD の家族の半数を占め、AD 人口全体の約 10% を占める。さらに、アポリポタンパク質 E がリスク修飾遺伝子座であることが特定されている。ドメイン: PAL モチーフは、正常な活性部位の立体配座に必要である。機能: Notch 受容体や APP (β アミロイド前駆体タンパク質) などの膜貫通タンパク質の膜内切断を触媒するエンドプロテアーゼ複合体である γ セクレターゼ複合体の触媒サブユニットと考えられる。ガンマセクレターゼ複合体の他の構成分子がプロテアーゼ活性を持つことを必要とする。細胞内シグナル伝達および遺伝子発現、あるいはクロマチンと核膜の結合に関与している可能性がある。タンパク質の細胞質分配に機能する可能性がある。オンライン情報: プレセニリンの変異, PTM: 異種タンパク質分解プロセッシングにより、N 末端および C 末端の断片が生成される。PTM: セリン残基がリン酸化されている。類似性: ペプチダーゼ A22A ファミリーに属する。サブユニット: DOCK3 と相互作用する (類似性による)。ホモ二量体。ガンマセクレターゼ複合体の構成要素であり、プレセニリンホモ二量体 (PSEN1 または PSEN2)、ニカストリン (NCSTN)、APH1 (APH1A または APH1B)、および PEN2 から構成される複合体。このような最小限の複合体はセクレターゼ活性に十分であるが、他の構成要素が存在する場合もある。HERPUD1、FLNA、FLNB、PARL と相互作用します。組織特異性: アイソフォーム 1 は胎盤、骨格筋、心臓に見られ、アイソフォーム 2 は心臓、脳、胎盤、肝臓、骨格筋、腎臓に見られます。、

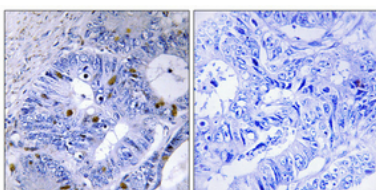
研究分野

ノッチ;アルツハイマー病;

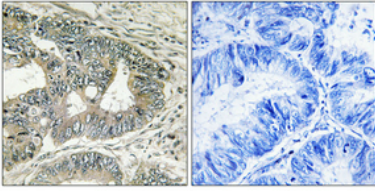
画像データ



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。



パラフィン包埋ヒト大腸癌の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。



パラフィン包埋ヒト大腸癌の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。